工場・医療・DCなど特殊空調で貢献

広範な分野のニーズに応える

新晃工業

適確な提案で需要を取り込む

空調機器総合メーカー、新晃工業（社長＝武田昇三氏、本社・大阪市北区南森町1―4―5）は、中央熱源式空調システム向けエアハンドリングユニット（AHU）、ファンコイルユニット（FCU）など二次側トップメーカーとして豊富な製品構成で幅広い産業分野からのニーズに応える。製品別に見た2014年の動向では、コンパクト型空調機「AJEC型」は、主として一般オフィスビルの新築需要や更新需要を着実に取り込み、工場や商業施設向けのプラクファンシリーズも堅調な推移を示した。

「AJEC型」は、次世代空調機の新コンセプト「Smart AHU（スマートAHU）」の初号機として市場に投入されたもの。ファンの駆動方式にダイレクトドライブを採用したことで同社従来機種と比べて設置床面積で25%、容積で20%の省スペース化を実現。1980年代から90年代にかけて竣工・稼働した地域冷暖房、大規模ビルの空調・冷熱設備が更新時期に入っており、それらの需要を取り込む適格な提案が焦点になる。

産業空調分野での排熱利用による省エネでは産業用低露点除湿空調機「デシコンドライ」を挙げることができる。

電池製造、製薬、食品加工、半導体などの工場分野をはじめ、環境試験室、食品貯蔵・機械製品倉庫といった用途に適するが、最近では低温物流センターでの利用が増えているという。

クリーンルーム用空調分野では外気処理用空調機を中核に幅広く対応、市場で高い納入実績を積みあげている。産業用クリーンルームの代表的な導入先は半導体、液晶工場だったが、大学の研究室、製薬工場などが主な需要先として顕在化してきた。製品軸では外気処理用空調機、ドライコイル、ドライコイルユニットなどをラインアップ、用途、要求レベルに応じて最適な構成を提供している。データセンターで最も重要な課題となっている熱対策について、同社は電算型空調機（DE型）をメインに対応。

全国的に底堅い需要がある病院・介護施設向け空調機器としては、「クリンキューブCu＋」、4床病室用ファンコイルユニット、隔膜型空気全熱交換装置「ロスコンRAA型」をはじめとする多彩なラインアップを構築、施設の安心・安全・健康維持をテーマとした提案に取り組んでいる。

「クリンキューブCu＋」は、除菌しながら一般的な水式加湿器を上回る経済性を実現した外気処理機「クリンキューブ」の抗菌剤「Cu＋」仕様製品。

4床病室用ファンコイルユニットは、独自の誘引型吹出口形状を採用したことで部分負荷時の気流到達距離の最適制御を可能にし、ダクトレスの4床個別制御を実現した。施工のコストダウンのほか、DCモータによる部分負荷時の効率化を図ったことで消費電力も削減できる。